

## 【事例 H24-03-06】群馬県

### ゲートキーパー養成事業

自殺対策推進において、保健師が地域の体制づくりのリーダーとして活動できるよう、自殺危機初期介入スキル研究会（ルーテル学院大学 コミュニティ人材養成センター）のワークショップ及びリーダー養成講座を受講した保健師による、保健師等の専門職を対象としたゲートキーパー養成研修を実施した。また、群馬県版ゲートキーパー手帳を作成し、さらに各保健福祉事務所の保健師の誰もが講師になることができるように、指導者用テキストを作成した。

【実施主体】群馬県

【大綱の分類】早期対応の中心的役割を果たす人材を養成する取組

【事業予算】平成 23 年度 1,882 千円

【利 点】

- ・座学ではないワークショップによる養成が定着した。
- ・ゲートキーパー手帳を作成した。

【実施に至るまで】

【背景・必要性・理由の概要・等】

これまでのゲートキーパー養成研修は、民生委員や保健福祉等の専門職を対象にうつ病の理解等の講義を中心とした研修であり、ワークショップ及びリーダー養成研修を受講した保健師を中心に今後のゲートキーパー養成研修のあり方を検討する必要性があげられた。それを受けて検討した結果、本県のゲートキーパー養成研修について、①保健師等の専門職を対象にワークショップによる研修と、②民生委員等を対象にした群馬県版ゲートキーパー手帳の作成及び手帳を活用したゲートキーパー養成講座の2つの体系化を図り、人材を育成することになった。

【計画を立てる上での工夫・等】

平成 20 年度に自殺危機初期介入スキル研究会の自殺危機初期介入スキルワークショップ（以下「ワークショップ」とする。）を受講した保健師が、平成 21 年度から3年計画で、所属する保健福祉事務所管内の保健師及び高齢者福祉関係職員を対象にワークショップによるゲートキーパー養成研修を開催したことをきっかけに、こころの健康センター等の保健師がワークショップ及び同研究会のリーダー養成研修を受講し、平成 22 年度は群馬県の東毛地域及びこころの健康センターでもワークショップによる研修が開催された。平成 22 年度のこころの健康センターの研修を次年度の取組のリーダー養成に位置づけ、県の保健師の受講を優先した。平成 23 年度のこころの健康センターの研修は、保健福祉事務所の開催計画がない地域をカバーする形で会場を選定し、地域的に県内全域の保健師が受講しやすいようにした。

【具体的な内容・実施の過程】

① ワorkshopによる研修

ワークショップは、「導入」、「自殺に関するさまざまな考え、信念」、「サインに気づく」、「理解を深め、生きる理由を探る」、「危険性をはかる」、「安全確保、支える仲間へつなげる、フォローアップ」、「ふりかえり」の7つのセッションから構成され、スキルを身につけるための参加型の研修であったため、保健福祉等活動の現場で相談に従事できることを目的に専門職を対象にし、また、県の保健師には地域の体制づくりのリーダーとして活動できるように、リーダー養成の位置づけを行った。

② 群馬県版ゲートキーパー手帳作成及び手帳活用による研修

平成22年度に、こころの健康センターにおいて、ゲートキーパー手帳作成検討会を開催し、研修テキストとしての群馬県版ゲートキーパー手帳を作成した。また、県内の全地域で手帳活用による研修が普及されるために、各保健福祉事務所の保健師の誰もが講師になることができるように、平成23年度下期に指導者用テキストを作成した。

【成 果】

指導者用テキストを作成したことにより、研修の質の確保とともに、継続した研修の取組につながる事となった。

【補 足】

平成24年度は、群馬県民生委員児童委員協議会及び各市町村に県からも働きかけを行っていく予定である。

【事業種別】 人材養成事業

【準備期間・人数】 1年6か月 保健師5～6名

【予防段階】 1次予防

【自治体規模】 人口2,007千人 財政規模670,211,000千円

【自治体負担率】 0%

【事業対象】 保健師

【支援対象】 民生委員等

【実施主体・問合せ先】 群馬県こころの健康センター TEL：027-263-1166